

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目 (令和 6 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,510	t-CO ₂
①を除外した温室効果ガス換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①～⑩合計)		2,510

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
温室効果ガス総排出量	2,484	t-CO ₂	2,484	t-CO ₂	2,506	t-CO ₂	2,510	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			0.0	%	▲ 0.9	%	▲ 1.0	%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂	2,480	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)						%	0.2	%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
原単位あたりの排出量										
削減率 (対 基準年度)				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率 (対 基準年度)						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

総排出量としては未達成だが、J-クレジット制度の活用及び令和5年度と同等の排出量に抑える事で、目標を達成。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源行動の実施(空調)	<ul style="list-style-type: none"> ・冷暖房温度を適切な設定で運用する。 夏期26℃ 冬期22℃ ・空調機の性能維持の為、保守整備を徹底する。 ・換気設備はインバーター式を採用し、負荷に適した運転を行う。 ・二重ガラス等、高断熱の設備使用している。 	左の項目を実施する。	事業者方針に基づき実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ運動や間欠運転設定など ・クールビズの通年導入
省エネルギー・省資源行動の実施(電気)	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率なLEDタイプの照明器具を採用している。 ・不要箇所は消灯し、センサーによる照度を自動調整し適正化を図る。 	左の項目を実施する。	同上
省エネルギー・省資源行動の実施(OA機器)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレス化の推進、複合機の省力化する。 ・OA機器は省電力タイプを選択する。 	左の項目を実施する。	同上 <ul style="list-style-type: none"> ・事業者で従業員単位への省エネ対応ノートPCを配布、必要以外の印刷控えを推奨
廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・館内のゴミの分別を徹底し、リサイクル率の向上を図る。 ・ペーパーレス化の推進から、紙ゴミの削減を図る。 	左の項目を実施する。	同上 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ分別制度を導入 ・リサイクル率、紙ゴミ削減率について一定値以上堅持を目標に取り組み

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
令和3年	コジェネレーション発電機	35kw×3台

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 2 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
J-クレジット	愛知県等	30.0 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

30.0	t-CO ₂
------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

下記項目を施工設計時より取り入れて、設置及び実施 (1) エネルギー利用：コジェネ設備の廃温水利用 (厨房と健康センターの温水へ再利用) (2) 水資源利用：雨水利用設備 (中水)、トイレへの節水式・擬音装置等の導入 (3) 廃棄物抑制：従業員単位へ業務PCを配布してペーパーレス化、ゴミの分別廃棄導入、印刷時の両面・裏刷り推奨 (4) 森林保全、緑化：屋上、壁面、敷地内緑化の導入、管理 (5) グリーン購入：「グリーン購入法」に準じた方針の推奨 (6) 自動車抑制：マイカー通勤、利用の禁止 (災害時、緊急時を除く) (7) 環境教育：社内専用電子掲示板等へ、取り組みや情報を定期的に掲示

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

事業者で毎週水曜日 (特定の月末営業日を除く) を [早帰り推奨日 (定時退勤)] と定めて事業者全体で実施、空調や照明の稼働時間低下による省資源行動での温室効果ガス抑制に努めた。
--